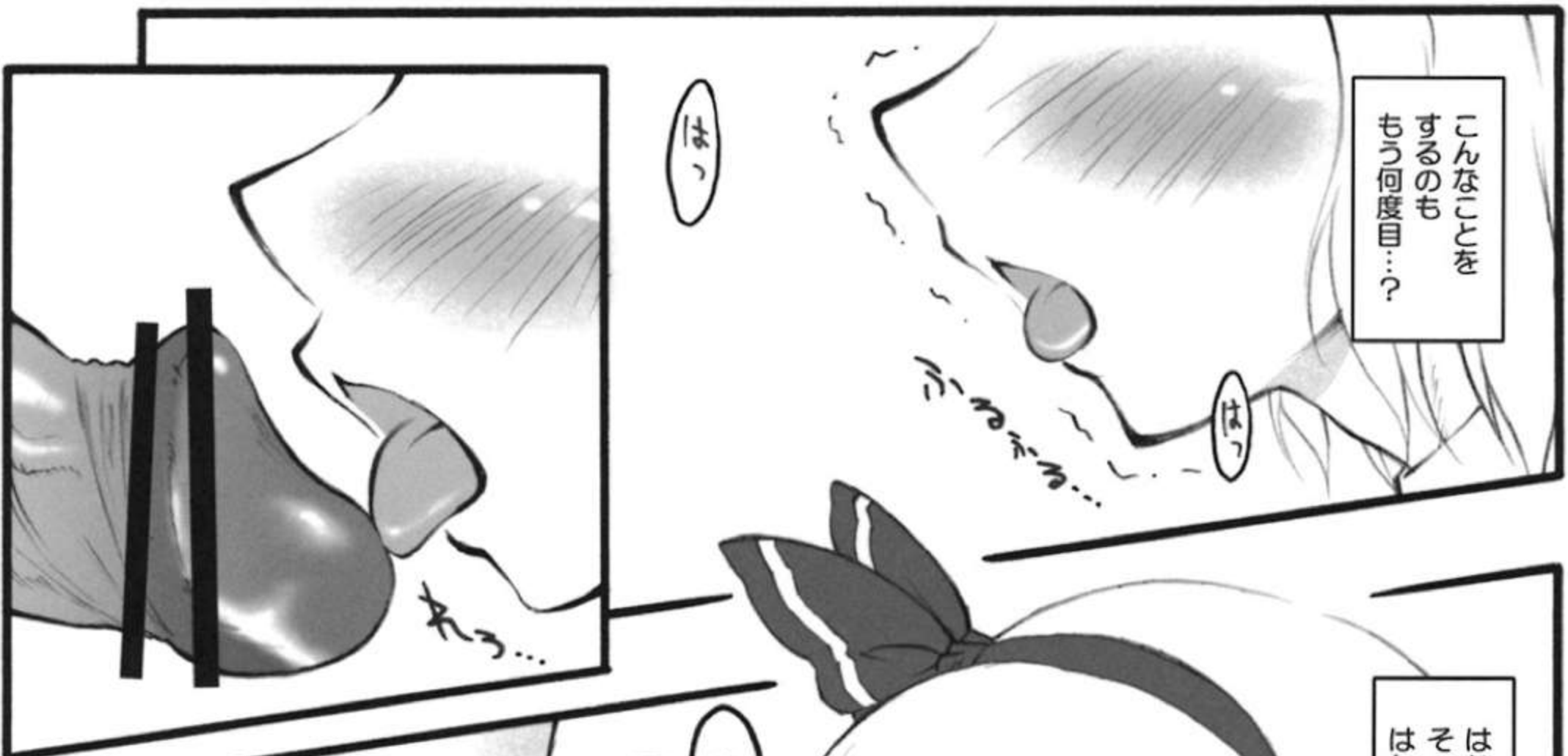


妖 夢

（東方少女催淫）







今度は
怪えるように
して

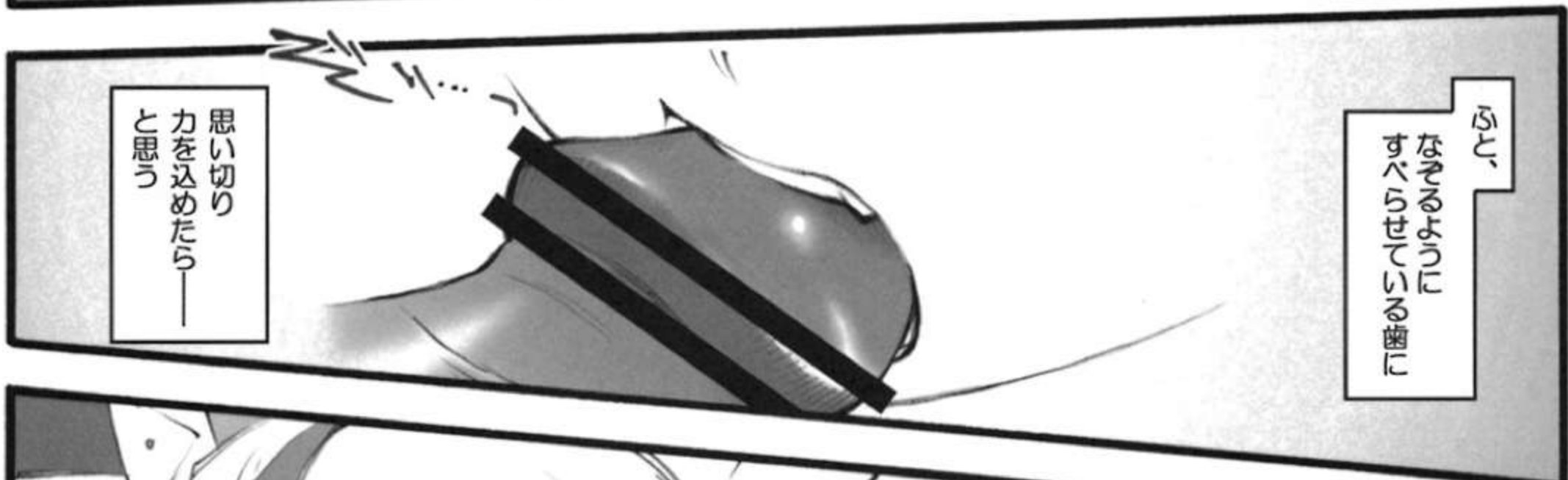
それに
熱くなって…

舌も使って
刺激します



どんどん…
大きく…

だ液で
すべりが
よくなったら



ふと、
なぞるように
すべらせている歯

思い切り
力を込めたら
—
と思う

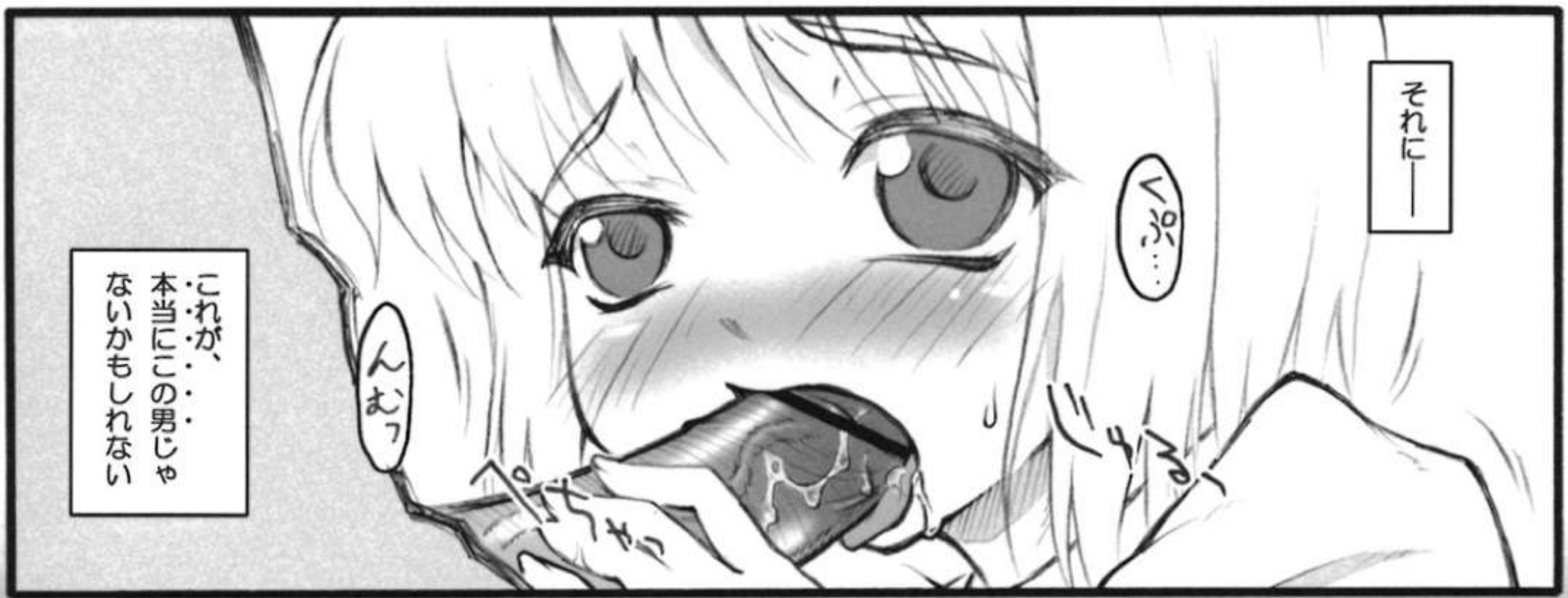


だけ
そんなことをして
どうにもならない

もしこの男を
倒すことが
出来ても—

楼観剣も
白楼剣も
奪われた

私の体半分では
どうにも



それに――

んむっ...

んむっ

これが、
本当にこの男じゃ
ないかもしれない



本当の彼は、
今も幻の
中にいる私を

んむっ...

んむっ



んむっ...

んむっ

んむっ...

んむっ

んむっ...

んむっ

んむっ

んむっ

見ているのかも
しれない



また...
これ...
や...っ



奥...っ!!
の...の...
頭を
つかまれて
好きなように
使われても



彼を
手伝う

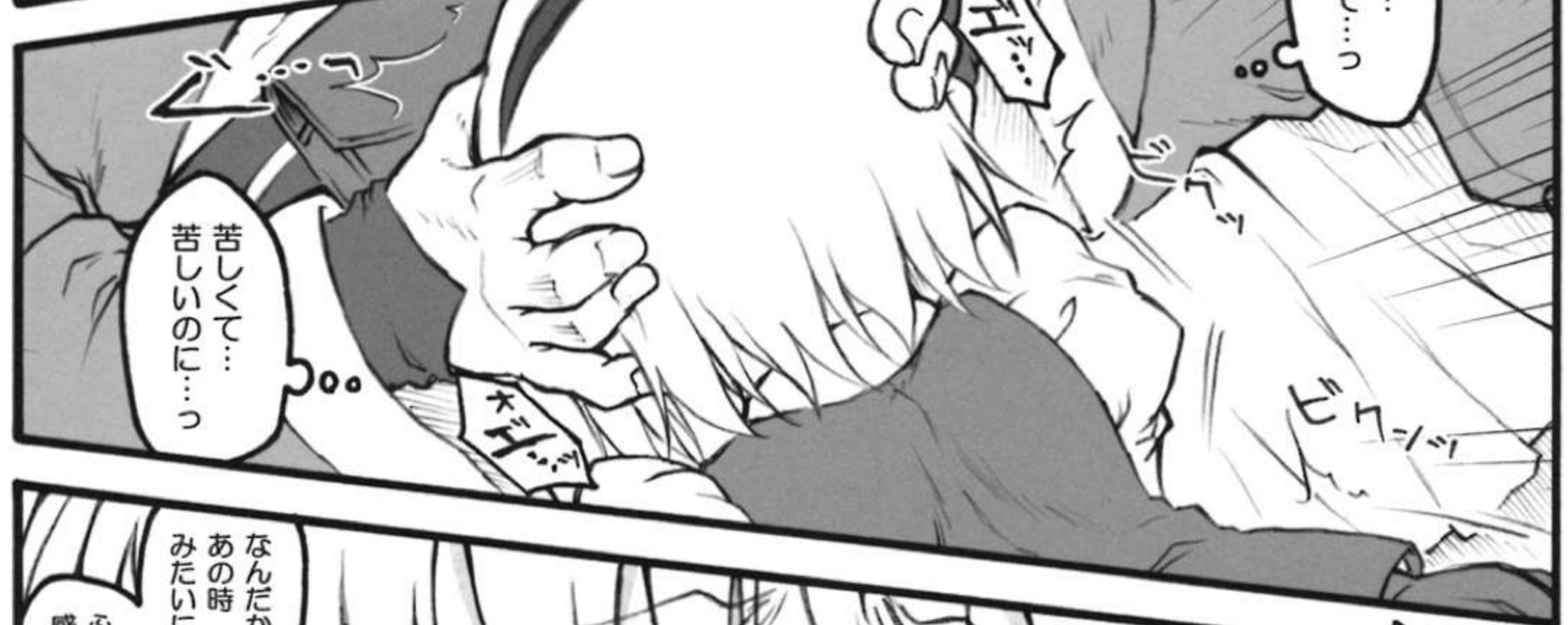
私はただ
唇をすぼめて
舌をからめて



耐えていれば
苦しい時間も
短くて
済むから

抵抗しても
苦しい時間が
増えるだけ
だから

これも...
全部...
...の...
為なん
だから...っ





——本当は
もうよく
わからない



それとも

もう、
諦めるかい？

嫌に、
きまつてるの？



我慢は出来ても、
なかなか最後まで
飲みきれないように
ならないね

私はこんな

おしっこを
出す場所に
そこから出た
ものに

口をつける
なんて



もう、
よくわからない

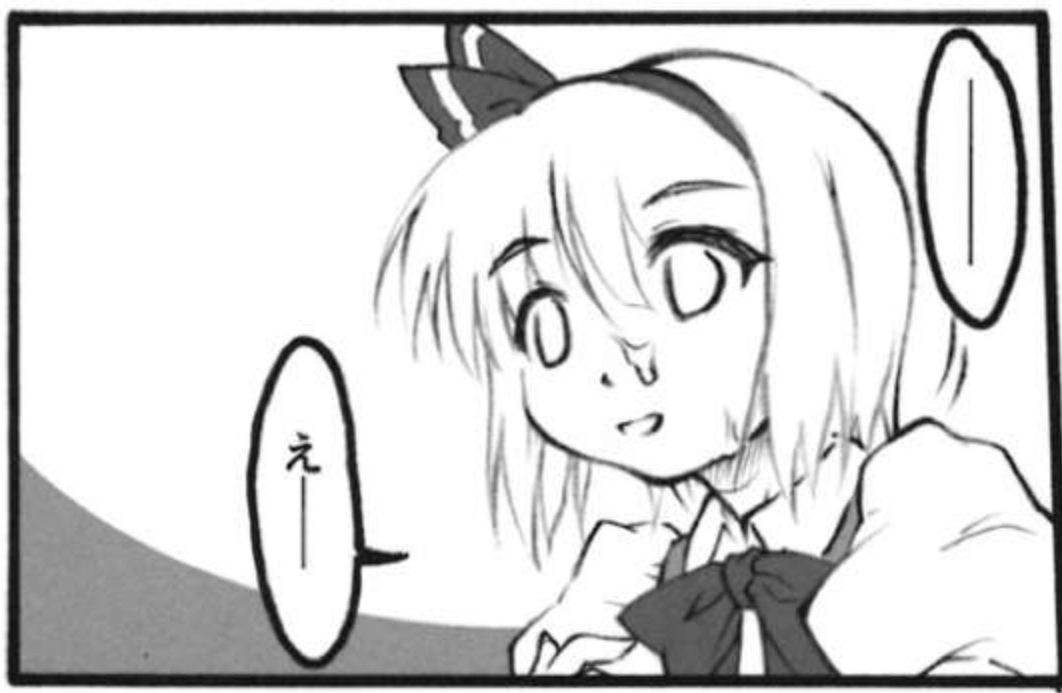
だから
私に
させて下さる？



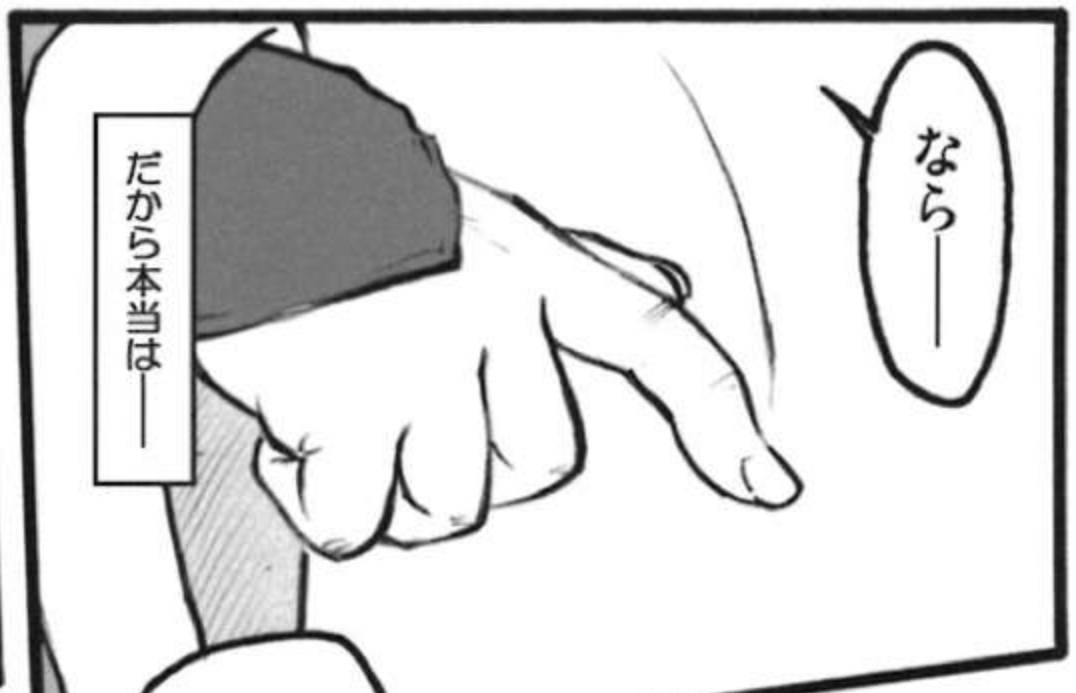
——
ごめんなさい
ちゃんと
しますから

ちゃんと
最後まで飲みきれ
ようになります
から——

どろどろを
注ぎ込まれて、
ほんやりとした
頭では、



えー



ならー

だから本当はー



嫌じゃありませんっ!!

そんな事
ありませんっ!!

あれ?
嫌なのかな
それなら
やっぱりー



ちゃんと
こぼしてしまった
分も全部
飲まないよね

そうなのかも
しれない

どろ...



す...

好き...
好きですっ

私、
好きですから

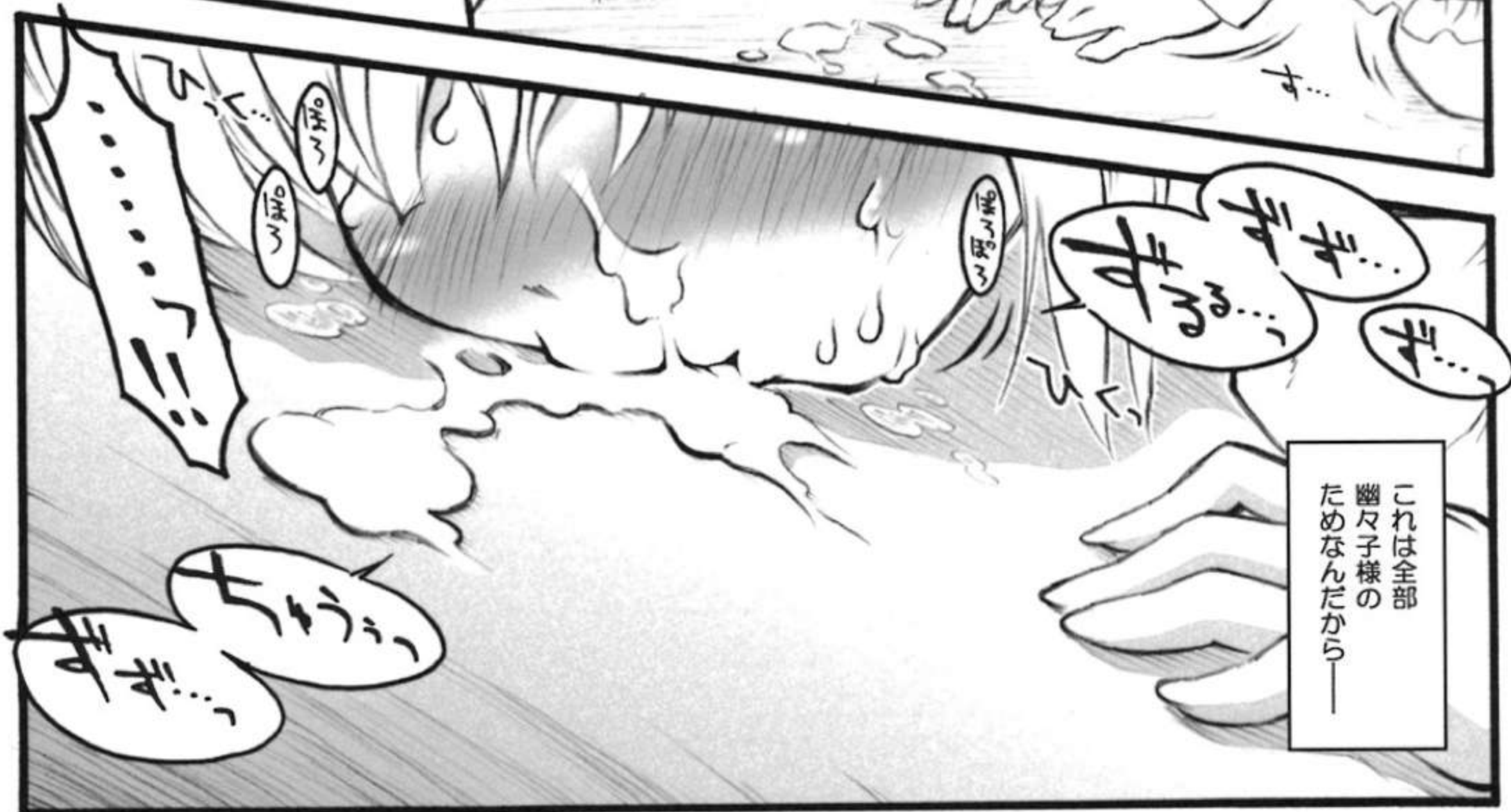
あなたのこれ
飲むの

あなたの
せ...せ...

飲まの好き!
飲まの好き!
飲まの好き!
飲まの好き!
飲まの好き!
飲まの好き!
飲まの好き!
飲まの好き!

本当に

嫌じゃない
のかもしれない



妖 夢

（東方少女催淫）



様子のおかしい
幽々子様を探って
入った香霖堂で

放してっ

放して
くださいっ

そんな暇は
無いと言う
私を無視して
店主が勧めるお茶を
しぶしぶいただいて

それで—

これ…
外してくださいっ

モッ…

気がついたら
こうなっていた

今は自分の
心配をした方が
いいかな

大した
忠義
だけれど—

な…
何を…!!

幽々子様…
幽々子様は
どこですかっ!!

もし幽々子様
何かしたら—!!

も…っ

まさか…
毒—っ!?



なになに
とってもいい
ものだよ

とっても
気持ちよく
してくれる—ね



動けない君の
代わりに、僕がして
あげようと思ってね

な...っ
何をしてるん
ですかっ!?

な、なら
私を繋いでいる
ものを早く
解いて！



そんな
まさか—



ななななな
何を—
そこは...
お尻の—

だんだんここでも
気持ちよく
なれるよ



そんな所…
指…抜いてえ…
気持ち…
悪い…っ!!

やめし…
やめし…

ぬ

ビーン

ビーン



じゃあ—
これで
どうかな?

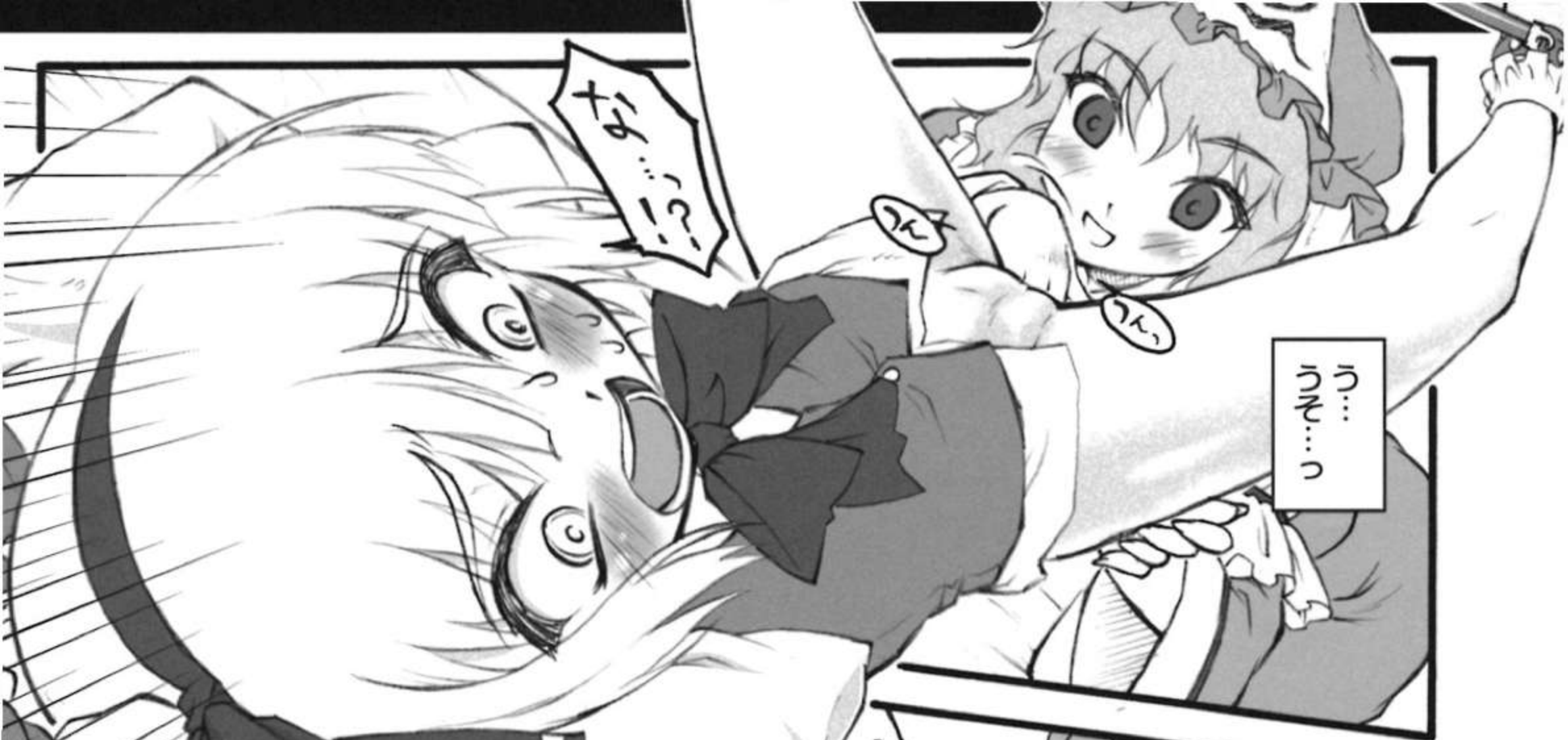
え…っ!?



…んあ

れあ…
…?

1. 2.
3!!



うっ…
うっ…
うっ…

ナニ…
っ…
っ…

私の…
お尻の穴に…

幽々子様…
何を…っ!!



幽々子様が…っ

んん…
んん…
んん…



何…
これ…っ!?

そうだ…
こんな事…

幽々子様が
こんな事する
なんて
本当のはず
ない…

幽々子様が…
こんな…
こんな事…っ

じゃあ…
これは…
幻覚…?

さっきの薬は
そういっ…?



やだ...
やだ...っ

幻覚と
わかってても...

あーっ
あーっ

幽々子様
に
されてると
思ったら...

変な
声...っ



内側まで...っ

さへっ...
ほっ...っ

かきだして...っ!!



あ...っ
や...っ

ご...っ
でも...

ゆゆ...
ごま...
あ...

お尻の穴...
幽々様が
触って...



こんな…
こんなの…っ

あ…っ

だいぶお尻にも
薬が馴染んで
きたみたいだね

…あ…？



それじゃあ
次はこれを
使っていこうか

え…
何…？



持つ所が
あ…

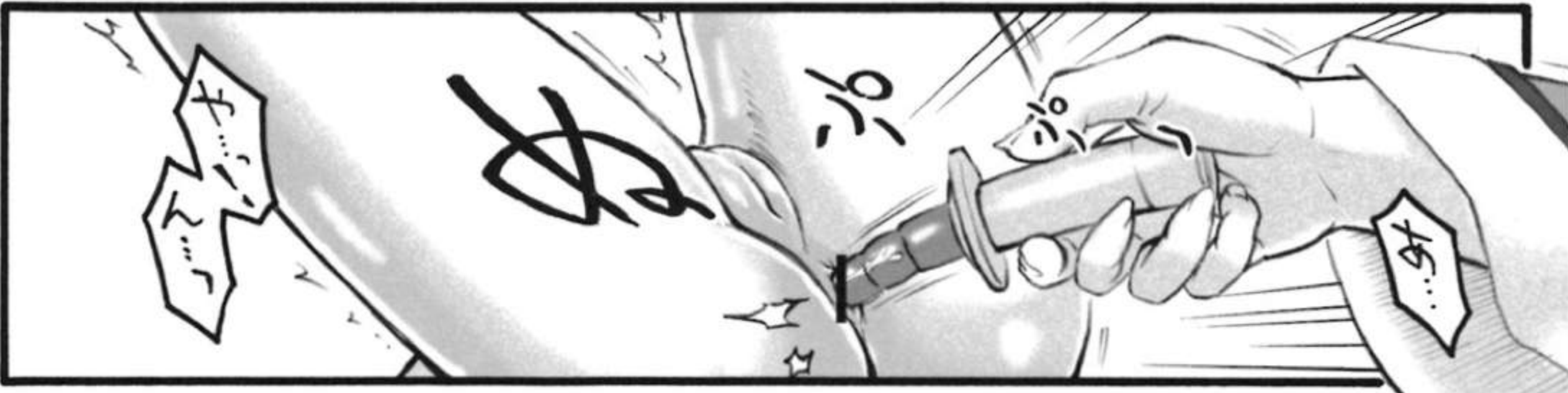
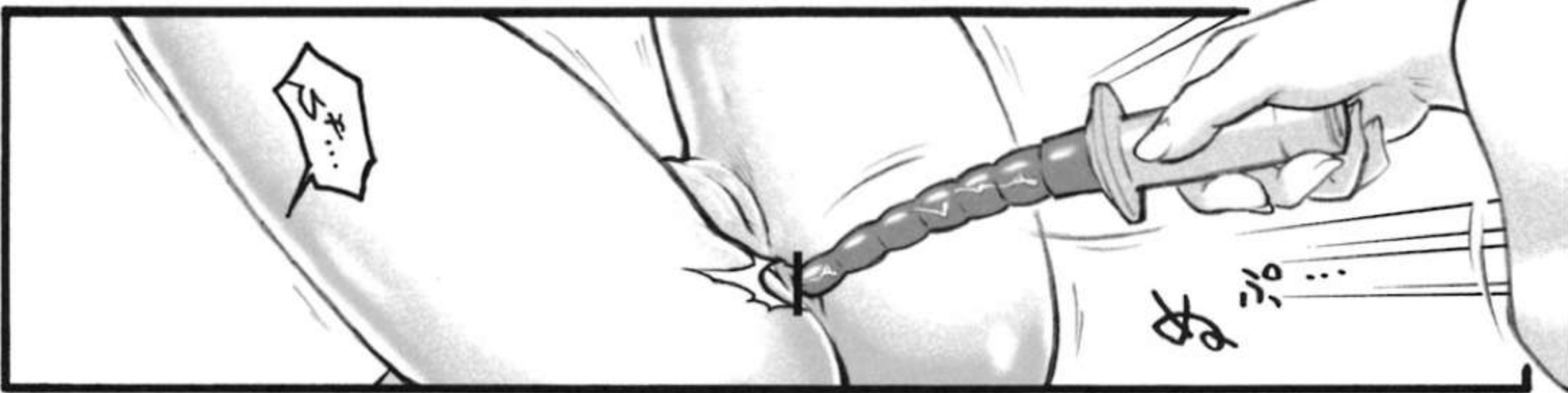
なんだか
いやらしい
色で…

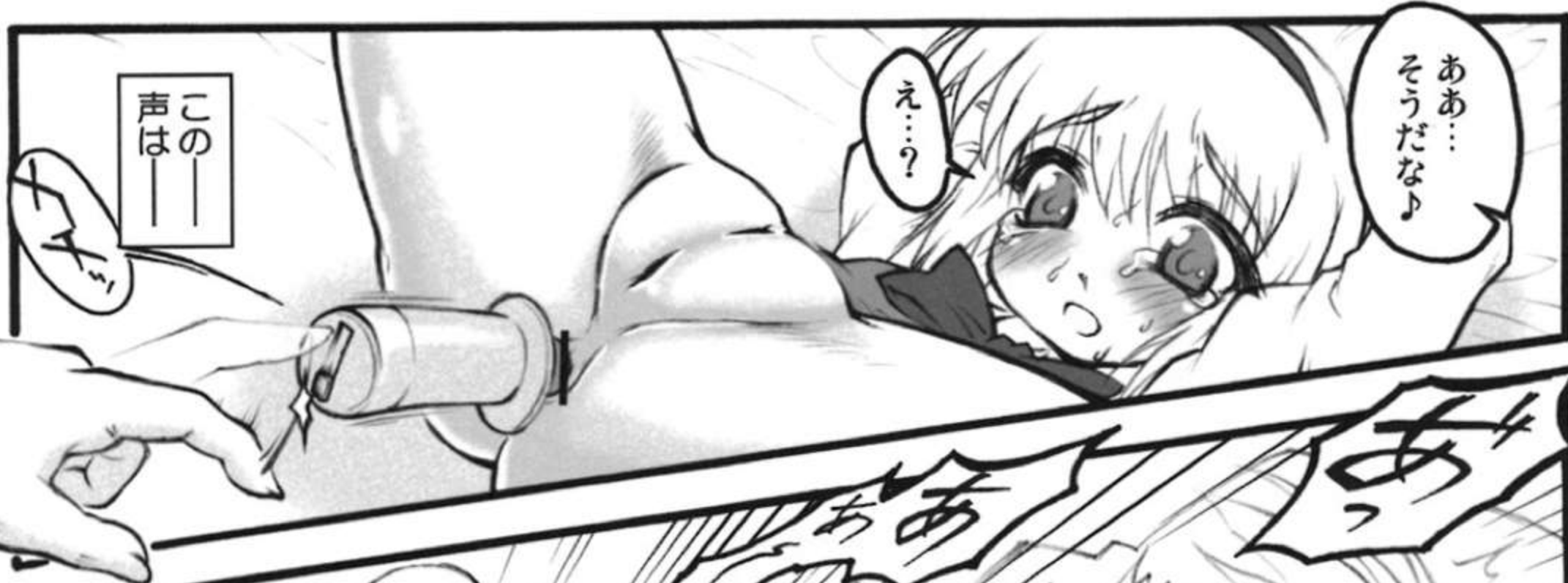


まさか…

え…っ

そんなの…
入るわけ…っ





ああ…
そうだな♪

え…？

この
声は――



――
っ!!



何っ
これっ

頭の
後ろまでっ

背骨の
中っ

全部っ
かきまわしてっ
かきまわしてっ



回回
うごちやう
うごちやう

ねじれてっ
ねじまねるっ

ほお...
おあ...
おあ...



何っ
これっ

飛んで...っ!?

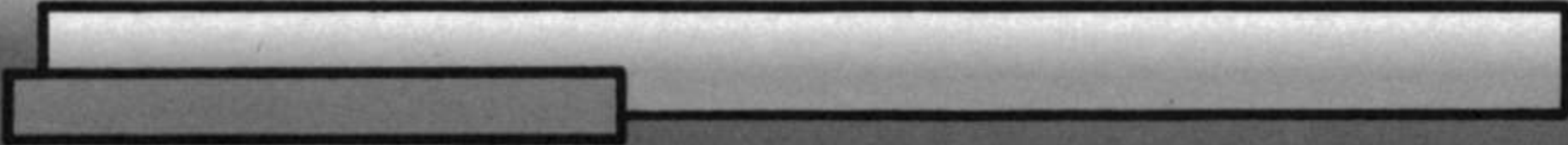
やあ...
やあ...

やあ...
やあ...

やだっ
飛んじやうっ

浮いちゃって
いられなく
なっちやうっ

わたし
これやだっ
怖い...っ







彼が言うには
それはイク
という事らしい

他にも、色々な
言葉を
教えられて

言わされた

嫌だった
けれど

また…っ

そんな…
言葉…っ

私がしなければ
代わりに同じ事を
幽々子様にする
言われた

どうしようも
なかった

ぎゅう…



それに
幻覚を
見せられたり
解かれたり
されると

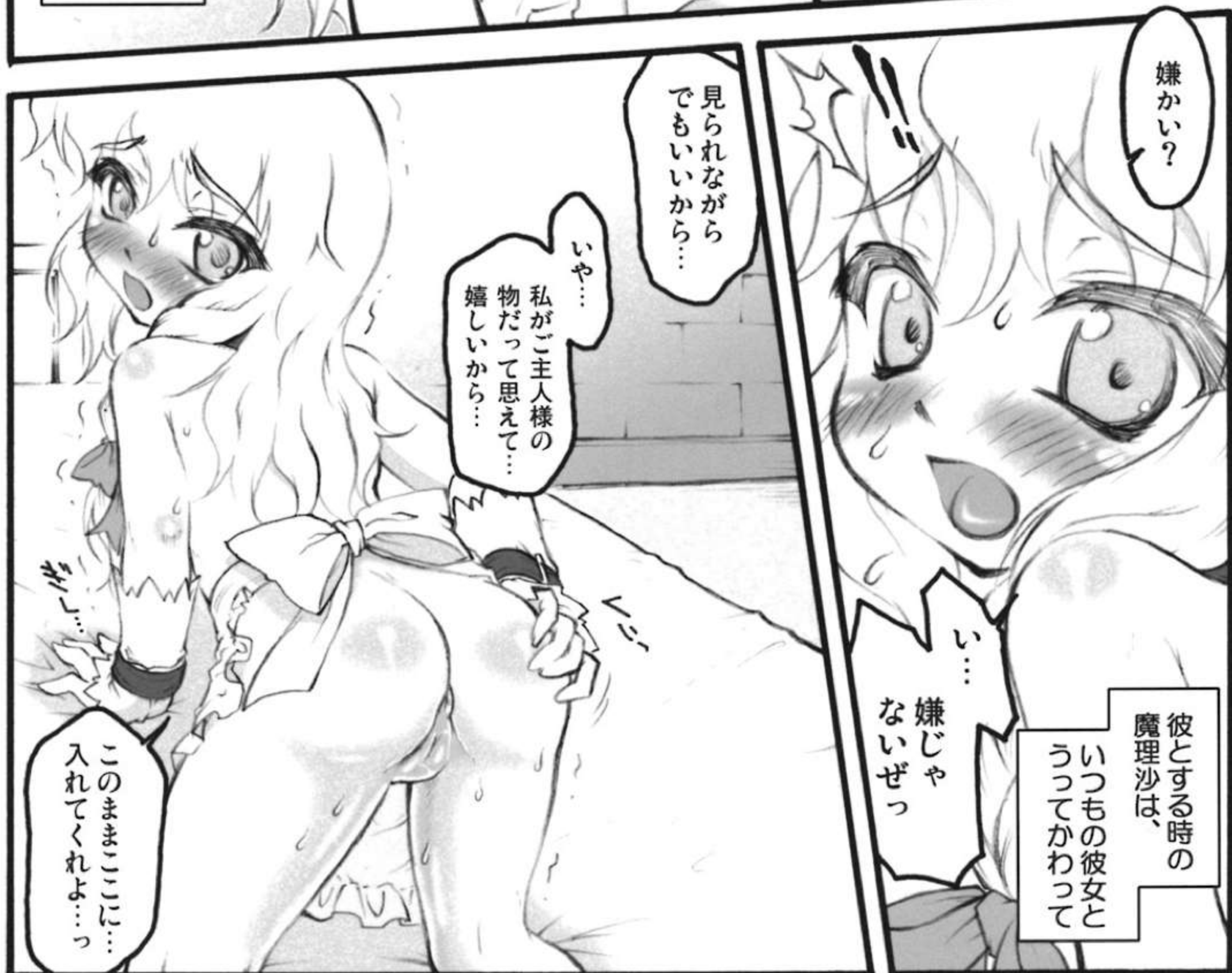
また…っ
こんな幻覚を…っ

全部、
よく解らなく

どうしようも
なくなってしまう

アツク…
アツク…
アツク…
アツク…
アツク…

アツク…
アツク…
アツク…
アツク…
アツク…



あんな…
おしっこが
出るものを…

みちみち…

その…
大きい方を
する場所に
入れられて…

そんな
汚い所で
悦んで…

みちみち
みちみち
みちみち



おしっこが
出るものを…

でも—

そんな所を
見せられたら

ん…っ

みちみち

みちみち…



私も、

私のお尻の穴に
入れられたままに
なったものを、
意識してしまう

—これは、
異物感が
気になって、
動いてしまうだけ

絶対、
そうすると
内側がこすれて、
気持ちいいから、
なんて事—



魔理沙も
私と同じように
監禁されて

だ...
だめ
だぜ...

その色々と、
恥ずかしい事を—

されたらしい

「こんな...
されたら...」

も...

あんな...

こんな...

恥ずかしい事、
何でも受け入れて...

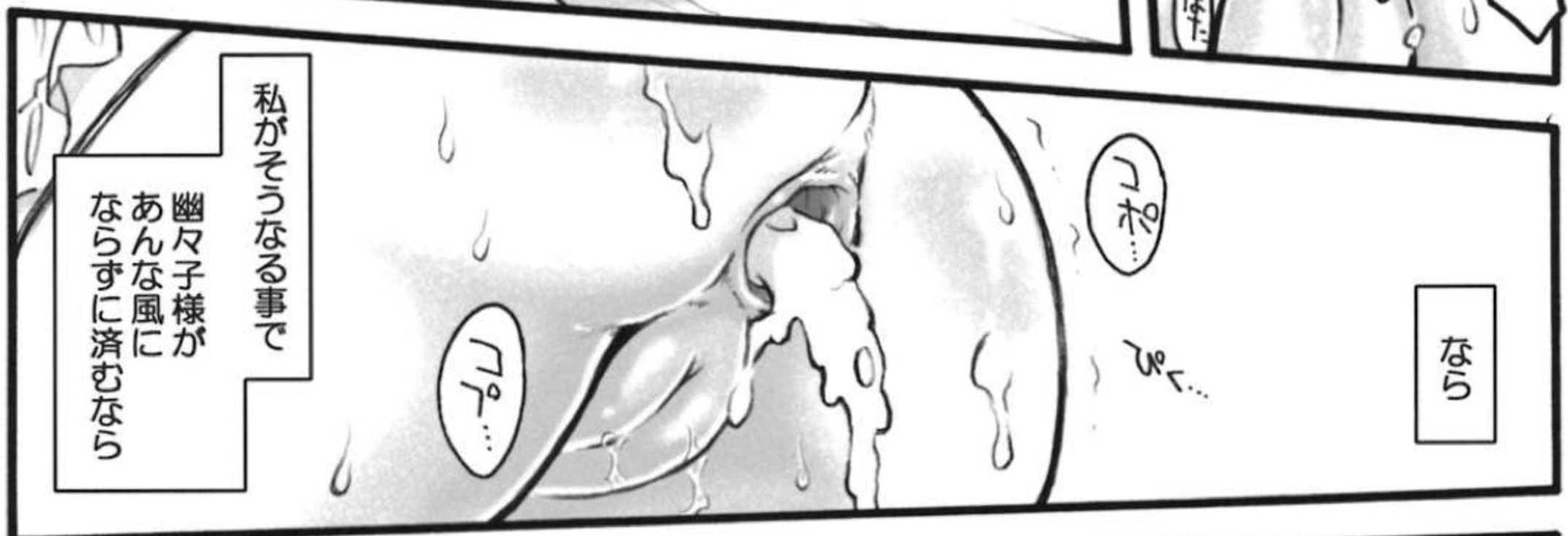
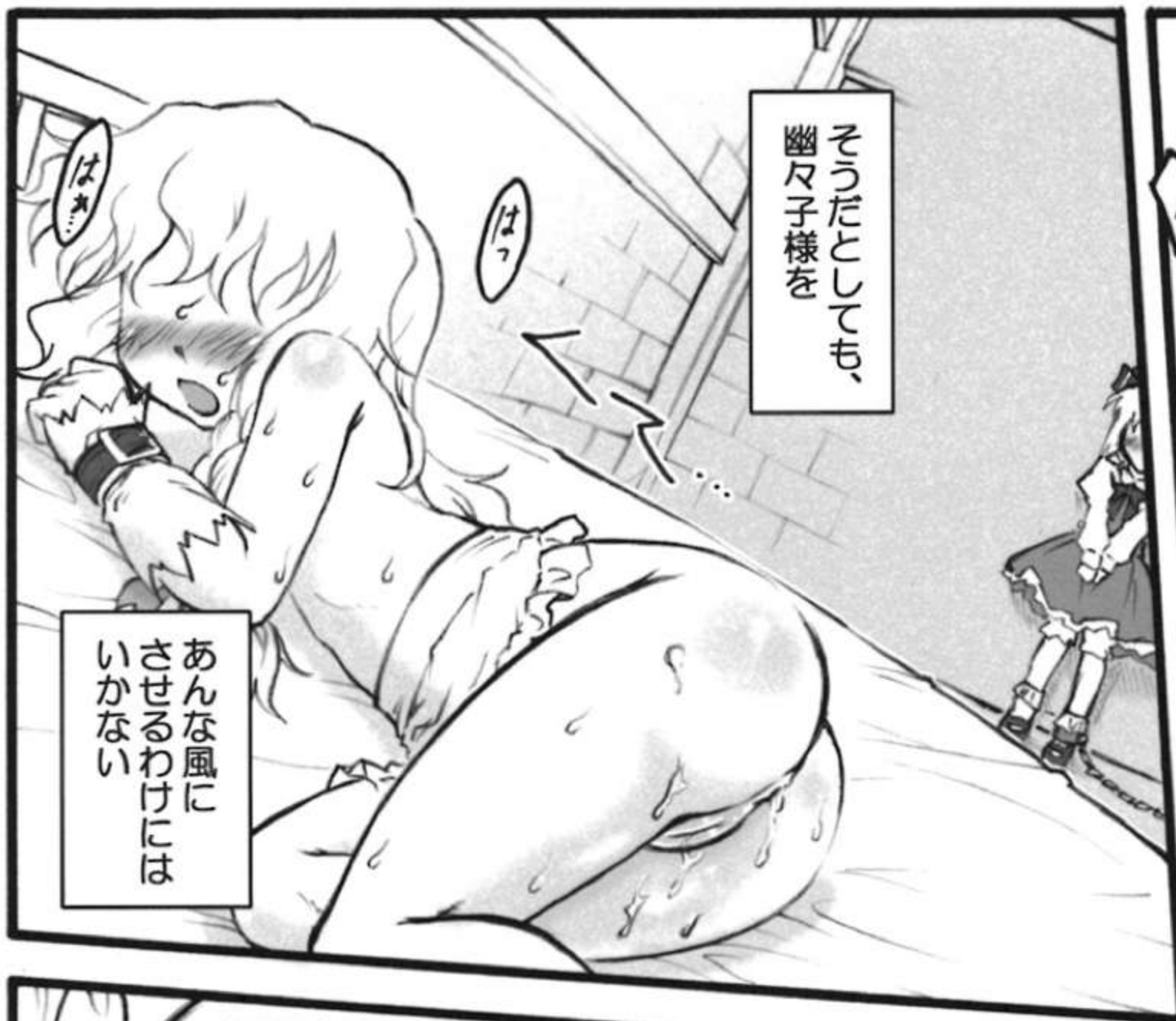
私も...
あんななの...?

なら—

こんな...

こんな...







おねがい
します…

ご主人様…っ

へた



ご主人様に
いじって
いただいた
おかげで…

妖夢の
ここ…
もう十分に
ほぐれますから…



これ…

ここ塞いでるの…
外して…

お尻の穴に…
アナルに…

おちんちん…
入れてください…っ!!



そのまま先を
押し込まれて…

塞がりきって
ない穴に…



抜かれ
ちやったら…

あ…



言いつけ
通りに中に
塗り込んでた…

とろとろ…
あふれ…っ



奥まで…っ!!

そのまま…奥まで
押し広げながら…っ



こんな…
お尻の穴…

入れたり
出したり
されて…



お尻…押し
広げられて…

ふわふわ
してるの…

うん…うん!!

突き上げ
られて…

浮かんで…

飛んじゃい
ますう…



ビクッ
ビクッ

うん…うん…
うん…うん…
うん…うん…

ぬぽ

ぬぽ

ずんぬん
ぬん

ぬぽ

後ろの穴に…
こんな…

こんな太いの…
入っちゃうわけ
ない…っ!!



熱いの…
出されて…

出す穴に…
逆に出されて…

気持ち
悪いの…

そのほか
なの…



気持ち
いいなんて…

う…う…

うんあ…!!



そうか、それはよかった

はい…

初めから全部…
幻覚だったんだ…

こんな風になっちゃったの全部…
本当じゃないんだ…



どうだい？
気持ちよく
なれたかな？

うそ…
うそ…
うそ…

そうか…
うそなんだ…

あー



なら、これからも
ちゃんと言う事を
きくんだより？
そうすれば
また気持ちよく
してあげるし

ならー

そうなる前に
言う事きいちゃう
のも…

仕方がないよ…
こんな…
気持ちよくない
はずの事で
気持ちよく
なっちゃっても…

何と言っても
これは
幽々子様の
為なんだからね？

それに



はい…
はい…
ご主人様ー

だって…

ウソ
なんだから…



今夜は
自分から

彼の部屋に
奉仕に来る
ように
言いつけ
られた

ん…



もじ

あれから
私は

すっかり彼の
言いなりで



コン

こんばんは
妖夢です

来ました



幽々子様を
助ける事を
諦めたわけじゃ

失礼します





あなただって
そうじゃないの？

そんな、
こと—

でも、そうだ
解り切った事

突き付けられた
条件は一方的

私には
彼に約束を
守らせる
だけの
取引材料は
何も無い

なのに、
そんな簡単な
事に

どうして
今まで—

ところで—

どうしてあなたが
ご主人様の事を
ご主人様だなんて
呼ぶのかしら

あなたの主人は
私でしょうか？

幽々子様…私…
その男に色々されて…

奴隷にされて
しまったんです…

らやらの事…

いっばいされて…
いっばいして…





お願い
します…っ

私も…

幽々子様と
一緒に…っ



さ、私も手伝って
あげるから—

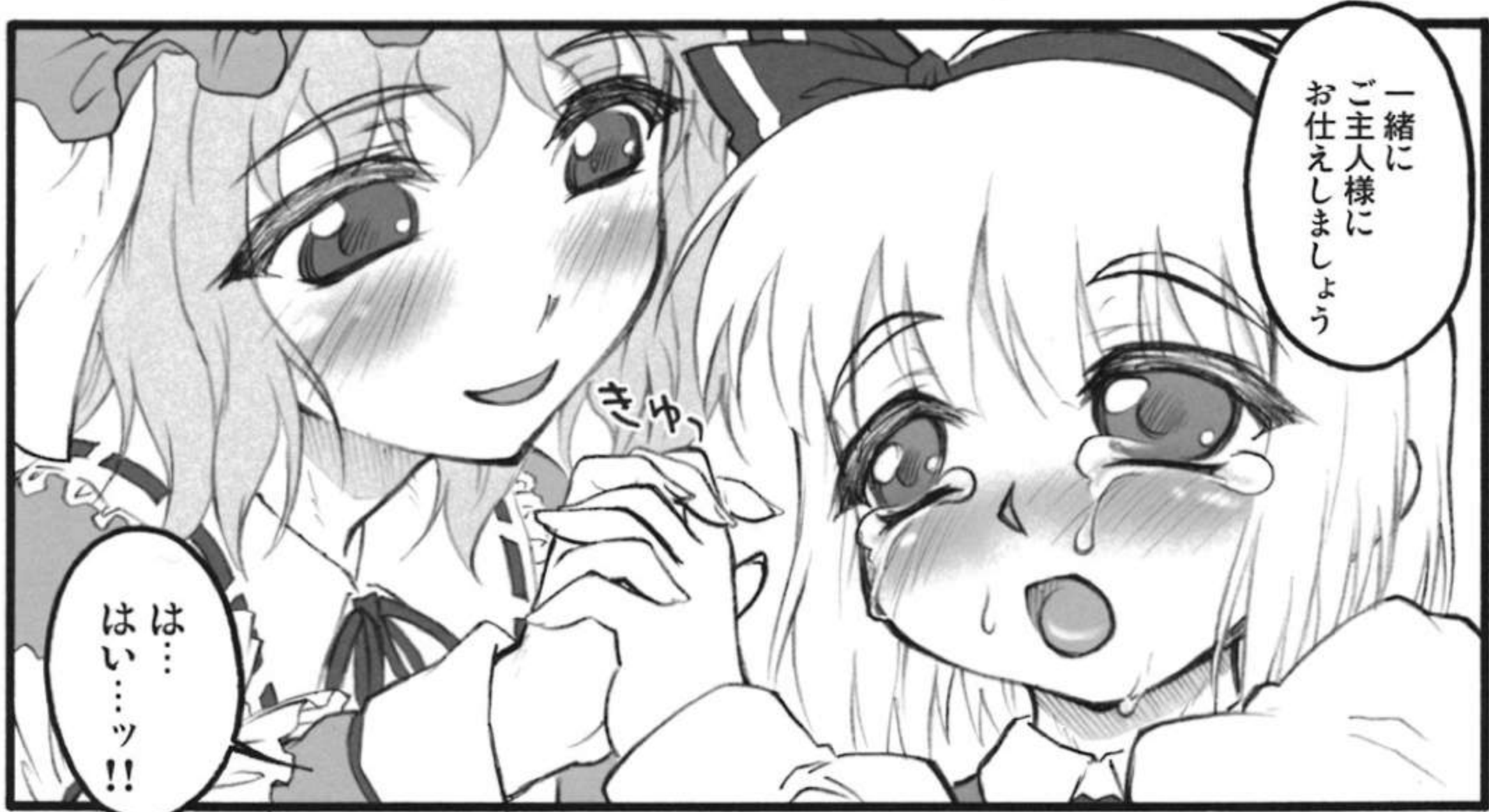
あ…



一緒に…っ

いいのよ
妖夢…

いじわるな事
言っごめん
なさいね



一緒に
ご主人様に
お仕えしましょう

きゅん

はい…
はい…ッ!!



ほら
これで全部よ



いっぱい
入った
わね♪

ん...っ

ぬほん



どう?
ちゃんと洗えて
いるかしら

ぎゅるる

ぎゅるる...

だ...っ
大丈夫です...

ちゃんと...
自分で何回も
洗腸しておき
ましたから...っ



それよりも...
早く出させて
ください

かんかんかん

あらいいの?
ご主人様の
前なのに

で...でも...
もう我慢
出来ないんですっ

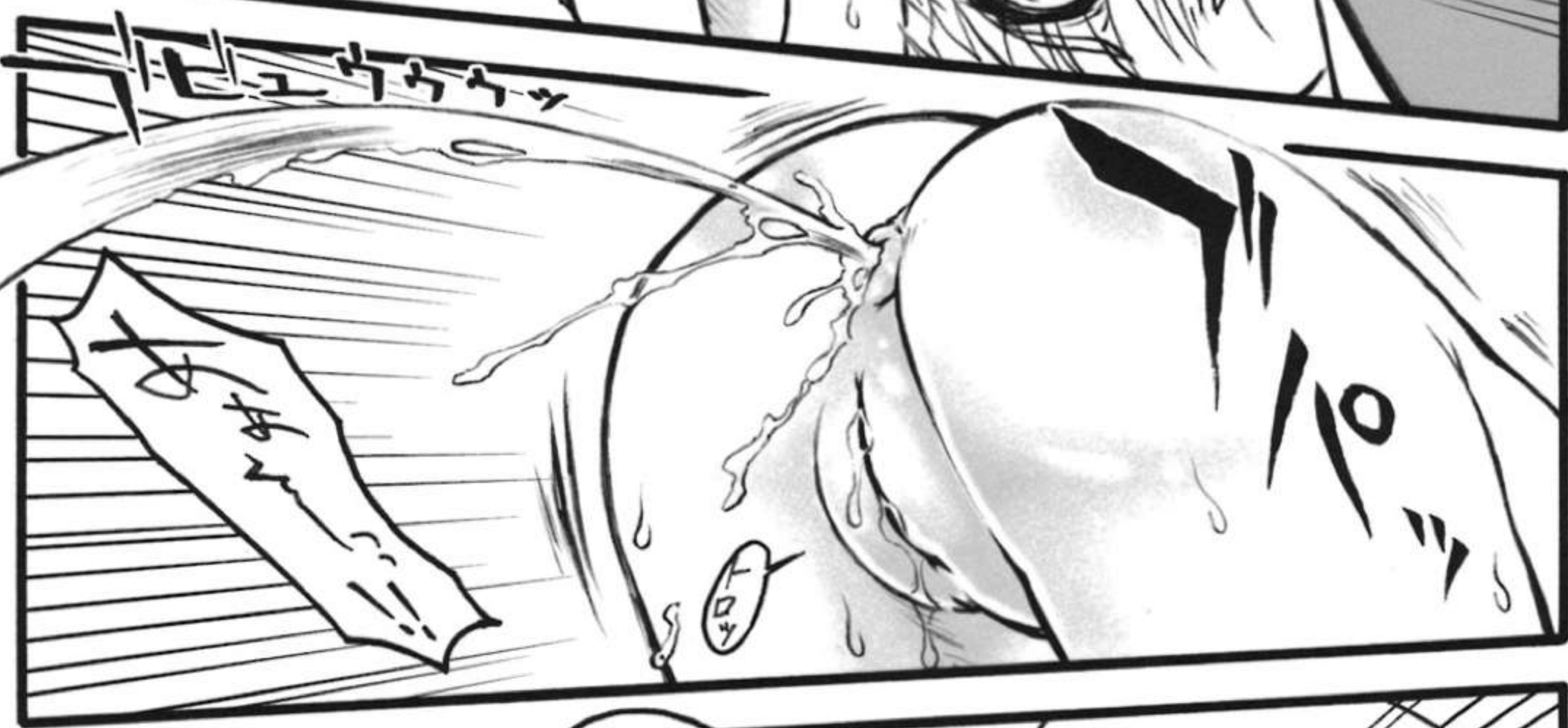


それじゃ
思い切って
出しちゃいなさい♪

「……おかし
……おかし」

「……おかし
……おかし」

「……おかし」



「……おかし」



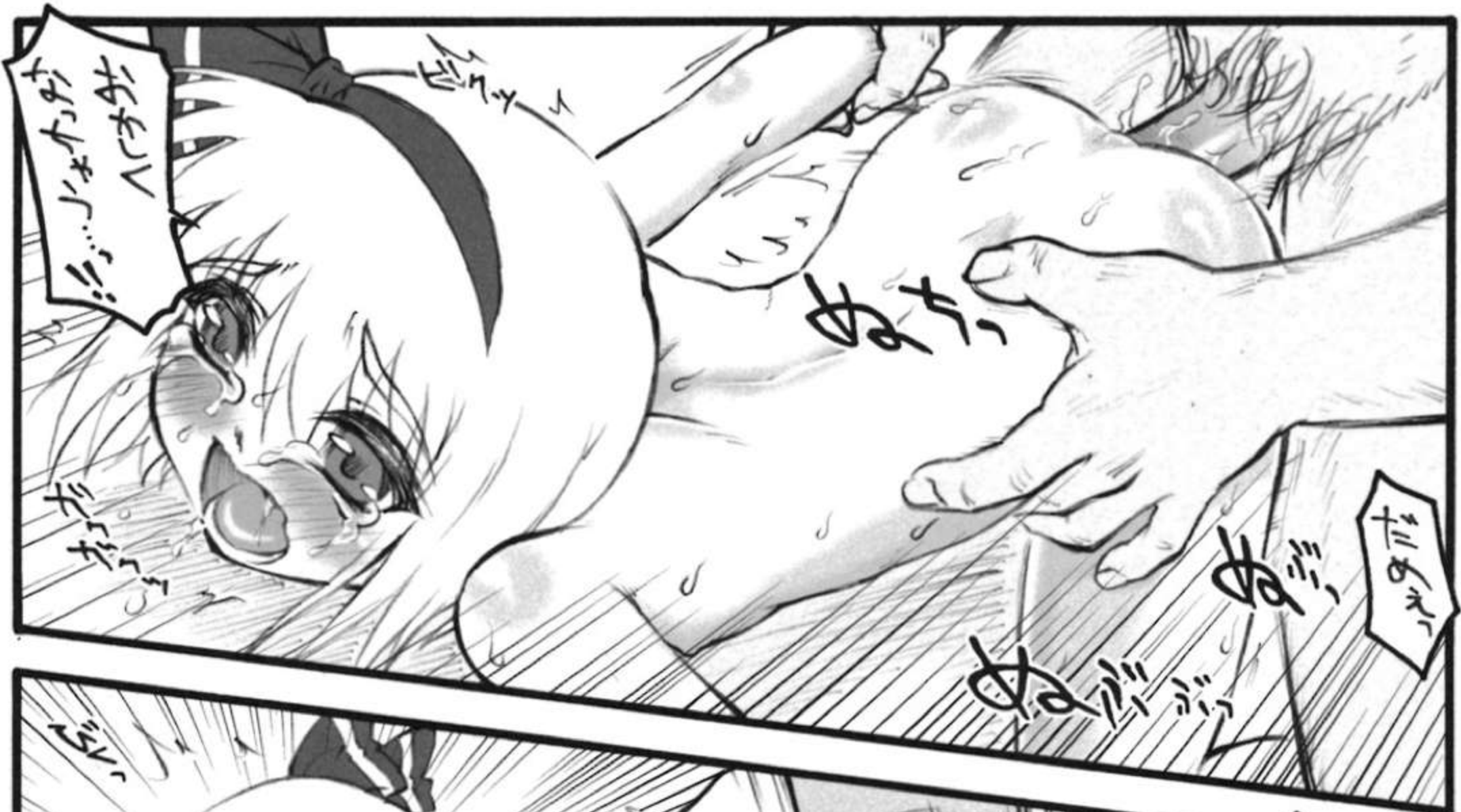
ほらほら
遠慮しないで
全部出しちゃい
なさい♪

「……おかし」

「……おかし」











あ...

お願いします...

今度はこっちに欲しいんです...



あ...♡

すごい...
ご主人様の...
まだまだ
硬くて...♡



お尻...洗って
る時から...

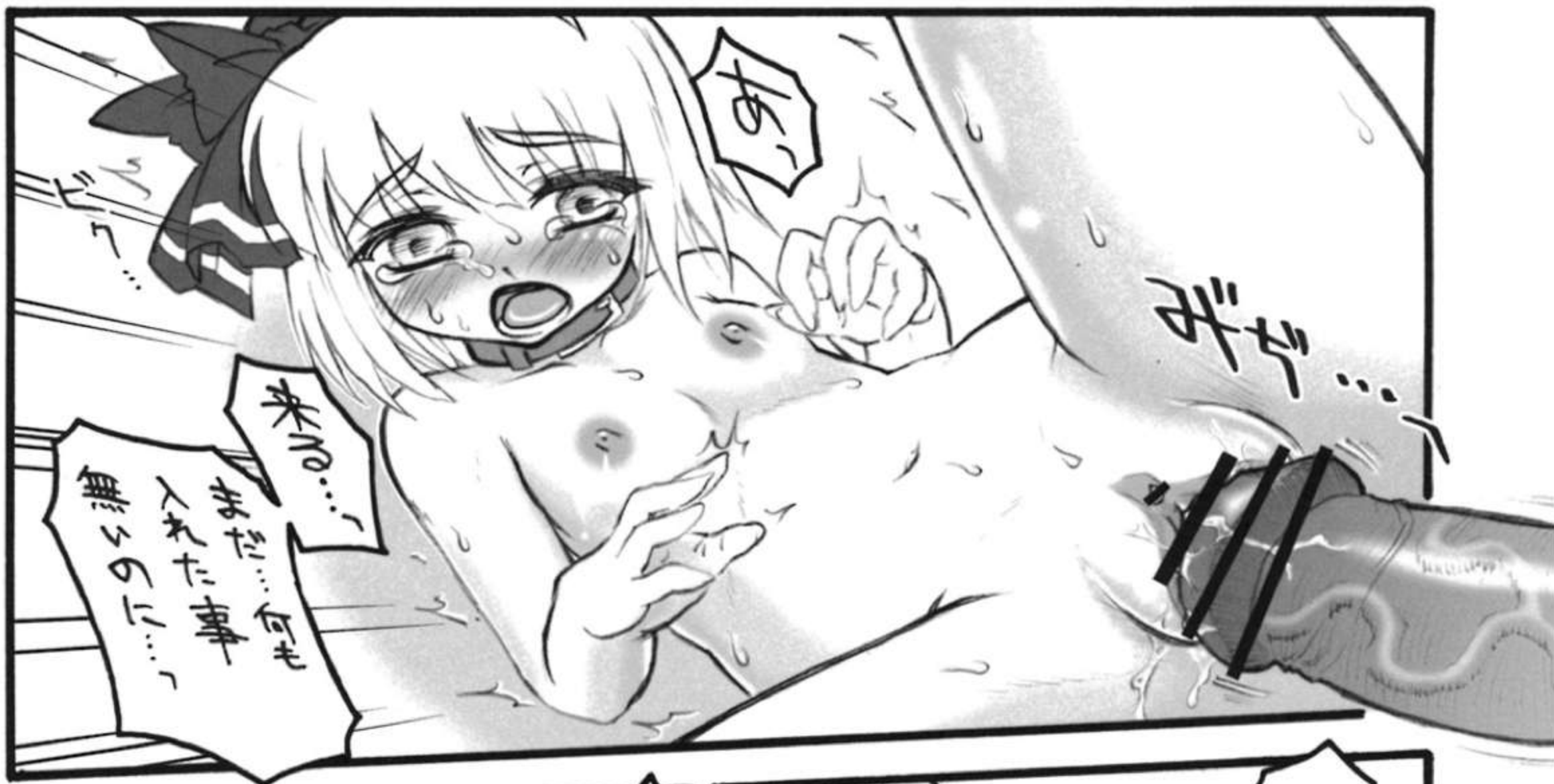
入れられ
ながら...

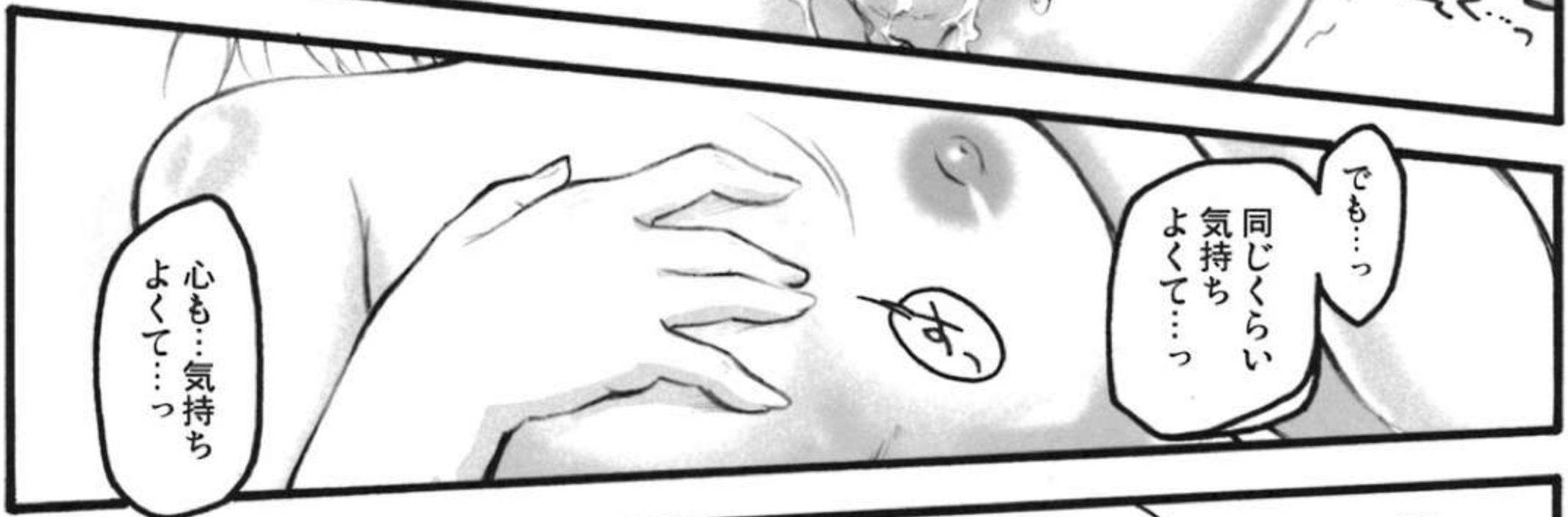
こっちにも...
おまんこにも
欲しくて...♡

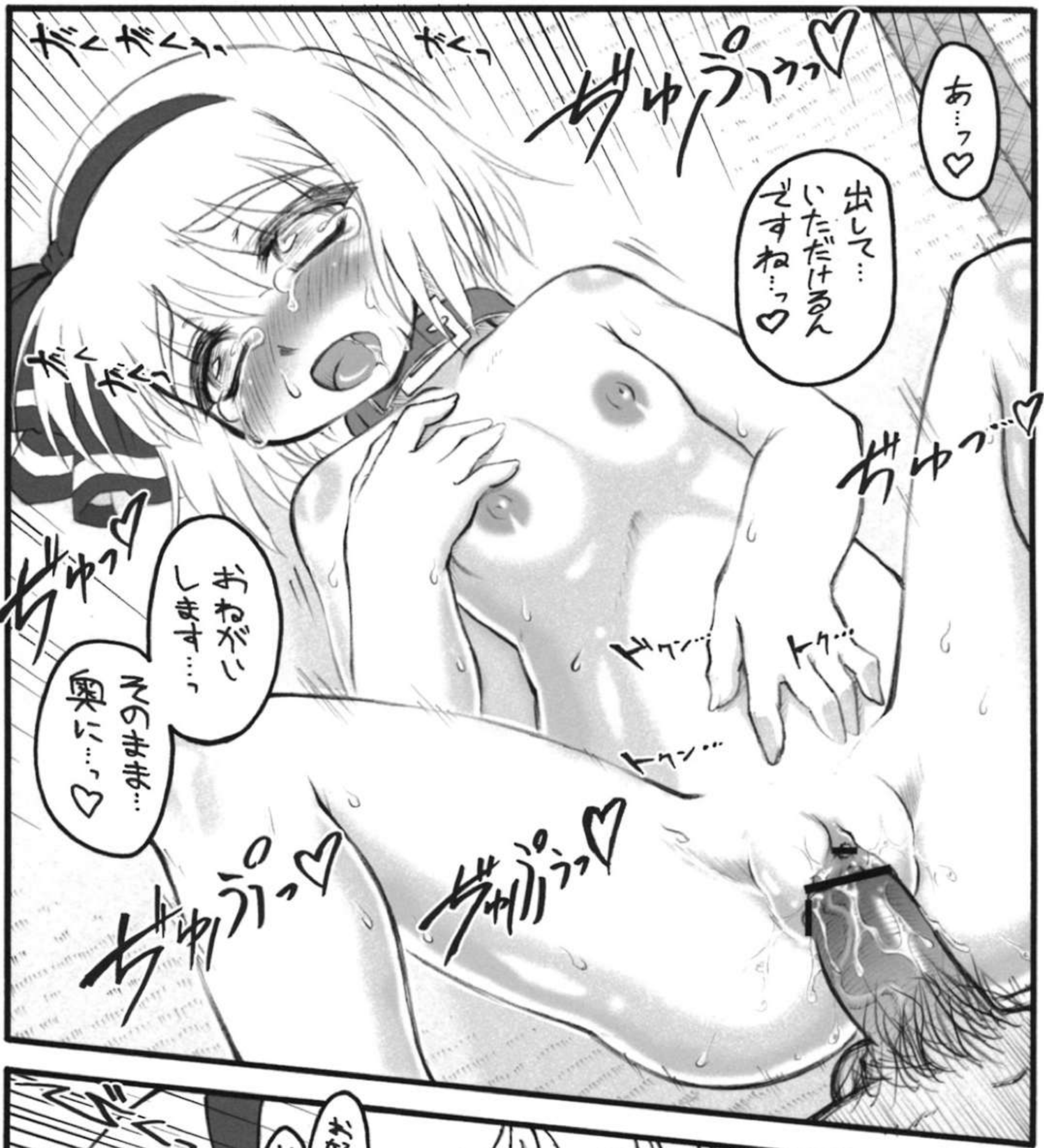
だから...!!

ずっと
いやらしい汁、

溢れさせて
るんですっ







あ...♡

出して...
いただけると
すね...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡



あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡

あ...♡



妖 夢

「東方少女催淫」



Adult Only
成人限制

妖
夢

「東方少女催淫」

CHIRIAKUTA 2008 SUMMER



Adult Only
成人限制

